

有識者会議とは何か？ ～地域再生から考える球磨川・川辺川の未来



内容：

- (1) 高橋ユリカ氏講演
- (2) フリーディスカッション

日時：2008年6月7日(土曜日)
午後2時～4時

場所：同仁堂ホールスタジオライブ
(熊本市上通り同仁堂ビル4階)
096-325-8131

資料代：500円

講師プロフィール：

たかはし・ゆりか、1956年東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。婦人誌などの編集を経てフリーライター・ジャーナリストに。「週刊ひとよし」で「ダム取材10年の証言」を昨年5月から、今年4月まで連載。

<http://www.hitoyoshi.co.jp/dam/>

主な著書に「病院からはなれて自由になる」(新潮社)「誰のための公共事業か～熊本・川辺川ダム利水裁判と農民」(岩波ブックレット)「医療はよみがえるか～ホスピスと緩和ケア病棟」(岩波書店)など。また雑誌「世界」「読売ウィークリー」「AERA」などに海外取材も含め、記事を多数執筆している。

在住の東京・下北沢のまちづくり問題にも関わり、都市・建築関係での海外取材も続けている。HPには、川辺川関係、下北沢関係の情報を国際的視点で多数掲載。<http://yurika-net.sakura.ne.jp/>

主催：

川辺川ダム問題を地域再生から考える学習会
実行委員会 (事務局 川本 tel/fax 096-325-6314
平野 090-2502-3410)

今、川辺川ダム問題はどのようなポイントにさしかかっているのでしょうか？

蒲島新知事による県政がスタートして約一ヶ月。公約通りに川辺川ダム問題に関して1回目の有識者会議(第三者委員会)が開催されました。しかし、東京在住の識者による東京での会議には、各方面から期待と共に不満や不安の声も聞こえてきます。

今、有識者会議に期待すべきことは何なのでしょう？12年前から来熊を重ね川辺川ダム問題の取材を続け、住民討論集会や霞ヶ関での検討小委員会、そして第1回目の有識者会議も傍聴し検証している東京在住のジャーナリストである高橋ユリカさんに全国のダム問題の現状を踏まえて、語って頂きます。

高橋さんがダム問題を取材する中から再認識されたのは、「球磨川・川辺川がいかにもすばらしい地域の宝であるか」という事だったそうです。川辺川ダム問題を解決するキーワードは地域再生ではないか。「週刊ひとよし」での連載「ダム取材10年の証言」で、高橋さんはそう結論づけています。(この記事はネットで全文読めます。URLはプロフィール欄をご参照ください。)

今年9月の知事判断に向けて、有識者会議は川辺川ダム問題の終結へのどんな道しるべとなりうるのか。蒲島知事に望むことはどのような判断なのか。ダム問題は、「ダムの是非」だけでは解決できないという視点から、川辺川ダム問題を改めて考える場を設けてみました。会場の皆さんと自由に意見交換する時間も設けます。どうぞご参加ください。